

春風秋霜

6月号

令和4年6月21日
島田市教育委員会だより
教育長 山中 史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 初めての議会答弁

教育長を拝命して3カ月。今回、初めて議会に出席させていただき、議会答弁を行いました。登壇するときのマナーというものが、事前に勉強しておきました。今回は、私が初めて答弁に立つということで、教育委員会への応援という意味を込めてだと思いますが、多くの議員さんが質問を寄せてくださいました。

教育長として就任2か月後の感想や現在の抱負を聞いていただいたり、学校現場の状況や教師不足のこと、学区再編や統合のことなど様々なご質問をいただいたりしました。自分なりに誠実に答弁をさせていただいたつもりです。

私は、今までいろいろな立場で考えたり、話をしたりしてきました。相手の話をしっかりと聞いて、それぞれの立場を想像しながら、考えていかなくはなりません。相手の方が、生活してきた環境や、興味をもっていることなどによっても考え方が違って来るからです。日本という国は、自分が思っていることを何でも言えるし、何を考えても罰せられるということはありません。国によっては、そのようなことさえも許されない環境におかれている人たちもいます。本当に、日本は素晴らしい国だと思います。

これからも、議員の皆様のご意見を聞かせていただきながら、教育行政に力を注いでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

2 最近、思うこと

皆さんは、新渡戸稲造の「武士道 (Bushido The Soul of Japan)」という本を読んだことがありますか。

私は、大学生の時にこの新渡戸稲造の「武士道」という本に出会ったのですが、当時、とても刺激的で、日本人としての生き方を真剣に考えたものでした。

新渡戸稲造が、「武士道」という本を書くきっかけとなったのは、外国で生活する中で、多くの人から、「日本では宗教教育がないと聞くが、どのように道德観を教えるのか？」と聞かれたことだったそうです。確かに、私も外国人から、そのようなことを聞かれたことがあり、日本では道德という授業があり、「人間としてどのように考え、行動するのか」について自分で考えるための授業を行っていることがありました。新渡戸稲造は、この本を1899年にアメリカで書いています。何と、英語で書いているのです。その後、いろいろな国の言葉に翻訳され、日本人の考え方や行動様式が世界中で紹介され、日本人の精神性が理解されていきました。世界に日本人の道德心が伝えられ、騎士道と武士道を比べられたり、論じられたりしたこともありました。

新渡戸稲造の「武士道」は、その後、日本人によって日本語に翻訳されました。彼は、小さい頃から「太平洋の架け橋とならん」という志をもっていたそうです。

この本を、まだ、読んだことがないという方は、是非、読んでみてください。いろいろと考えさせられることが多いと思います。英語版と日本語版の両方が書かれた本もあります。比較しながら読むと面白いかもしれません。

3 ツバメのその後

前回書きました我が家の「ツバメ」の顛末ですが、その後、ツバメの巣から子ツバメが2羽、無事に飛び立っていききました。

カラスに壊されたツバメの巣ですが、どこからか新しいツバメが飛んできて、新しい土を運び、前回破壊された部分をきれいに修復していました。「ツバメもなかなかやるなあ」という感じです。修復した後、新しいツバメの夫婦が飛んできて巣の中にある卵を温めているようです。今回は、カラスにいたずらをされないように、対策を考えていこうと思っています。

今朝もごみを狙うカラスが近くにいました。厳しい自然界を生き抜くことはなかなか大変なことだと思います。



肘かけ椅子

学校教育課長 村田一史

「新規採用教員を迎えて」

今春、島田市では14人の新規採用教員を迎えました。赴任前の3月、教員としての職務や生活について話をしたところ、どの初任者も目を輝かせながら話を聞いてくれました。不安もあると思いますが、教職に大きな希望と期待を持っている様子がひしひしと伝わり、大変嬉しく思いました。この変化の激しい時代、様々にある職業の中から教員を選択し、子供たちのために自らの人生を懸けようとしている彼らに、限りない歓迎と感謝の念が湧いてきました。

昨今、社会での教育に関する話題は、プラスの側面が減っているのではないかと感じています。教育界には、働き方改革を始め、コロナ対応、いじめ問題、不登校、教員不足など、解決すべき重要な課題は様々にあります。しかし、教職には他では味わうことができない教職ならではの魅力が数多くあります。季節の移り変わりとともに各行事に向けて子供と共に取り組み、子供と学級が成長する姿を見たとき、授業で子供が夢中になって学ぶ姿に出会えたときは、それまでの苦労は吹っ飛び、教師になってよかったなどと心底思えてきます。

現在、市内の各学校では、子供の未来を見据えながら、その学校ならではの教育活動に取り組んでいます。夢や目標を持ち、実現に向けて集団の中で様々な教育活動を経験していく子供たちは、1年間で見違えるほどに成長します。子供の成長を実感できた時ほど、教師にとって嬉しいことはありません。

教育は学校に限ったことではありません。大人が子供に接する全ての場面で教育の機会は生まれます。教育の魅力ややりがいについて語ることは、目の前の子供の豊かな成長や教育の改善につながるのではないかと感じています。教育に携わる全ての人や機関が、教育の未来とその魅力について相互に発信すること、プラスに目を向けることが、世界情勢が不安定な今日、子供たちの未来を創る、守る上で大切なのではないかと感じています。